

令和 2 年 6 月 8 日現在

機関番号：12201

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2019

課題番号：16K02796

研究課題名(和文)パラフレーズの教育方法に関するハンドブックの開発 理論・実践・応用

研究課題名(英文) A Study of the Development of an Instructional Book on Paraphrasing in Japanese as a Second Language: Theory, Practice, and Application

研究代表者

鎌田 美千子 (KAMADA, Michiko)

宇都宮大学・国際学部・准教授

研究者番号：40372346

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,500,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、パラフレーズ(言い換え)の教育方法に関連する事項を言語学・認知心理学・学習科学の知見に基づいて多面的に検討した上で、主に複数の言語技能を組み合わせた日本語学習に関する指導書を開発した。開発の過程では、第一に、作成した試作版の評価アンケートを大学生・日本語教師対象に行った。第二に、複数の大学教員から専門的・評価的な意見を得た。これらの結果をもとに改善を図り、日本語指導書『パラフレーズから考える日本語教授法』を完成させた。本書は、(1)パラフレーズに関する専門知識を学ぶ「理論編」、(2)教育実践について考える「実践編」、(3)タスク形式で教材作成を試みる「応用編」から構成される。

研究成果の学術的意義や社会的意義

言語技能は、「聞く」「話す」「読む」「書く」の四つに大別され、従来の日本語教育では、四技能別に学ぶことが主流であった。だが、実際には、「聞いたことを書く」「読んだことを書く」「話したことを書く」「書いたことを話す」「聞いたことを話す」「読んだことを話す」のように、複数の言語技能を組み合わせた言語活動が広くなされている。本研究では、こうした言語活動に必要なパラフレーズと教育実践に関して豊富な例文と事例、授業案等を通して解説した日本語指導書を開発した。このような日本語指導書は、従来なかったものであり、上述したような言語活動の教育方法について段階的に学ぶ機会を提供できるようになった。

研究成果の概要(英文)：This study developed a Japanese language instructional book focusing on teaching methods for language activities that combine reading, listening, speaking, and writing skills. The paraphrasing discussed in this study is essential for these language activities. The instructional book describes focusing on paraphrasing in Japanese as a second language. Methods of teaching were explored based on previous studies in linguistics, cognitive psychology, and learning science.

In the development process, a trial version was assessed using two methods: the first was a questionnaire survey targeting university students and Japanese language teachers; the second was feedback from several professors who specialize in Japanese language pedagogy. After reflecting on the results and making improvements, the Japanese language instructional book was completed.

研究分野：日本語教育学

キーワード：パラフレーズ 言い換え リライト 四技能 レジスター 日本語教授法 日本語教師養成 日本語教育

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

言語技能は、「聞く」「話す」「読む」「書く」の四つに大別され、従来の日本語教育では、四技能別に学ぶことが主流であった。だが、実際には、「聞いたことを書く」「読んだことを書く」「話したことを書く」「書いたことを話す」「聞いたことを話す」「読んだことを話す」のように、複数の言語技能を組み合わせた言語活動が広く行われており、例えば話しことばを書きことばに直したり(例: ちょっと 少し、わずか)、具体的な内容を抽象化したり(例: バス、鉄道、地下鉄 交通機関) 述べ方自体を変えたりしている。このような言語活動において重要な役割を担うのがパラフレーズ(言い換え)である。パラフレーズは、図1に示すように、それぞれの言語技能をつなぐ特性を有し、中上級以降では、こうした言語技能を組み合わせた日本語学習の必要度が高まっていく。日本語学習者にとっては、話しことばと書きことばの使い分けは容易ではなく、その教育方法に関する議論が不可欠である。種々の言語場面にパラフレーズがどのように関係しているのか、またどのように学習をデザインするのかを教える側が自ら考えられるようになることは、日本語教師養成段階から必要であると言える。

一方で、既存の日本語教科書でパラフレーズについて扱われているものはごくわずかであり、扱われていたとしても一部にとどまっている。また、パラフレーズが日本語教授法に関する授業で取り上げられることは稀であり、市販の日本語指導書においても扱われていない。

そこで、本研究では、言語理論と教育実践をつなげる試みの一つとして、パラフレーズに着目した日本語指導書を開発することにした。

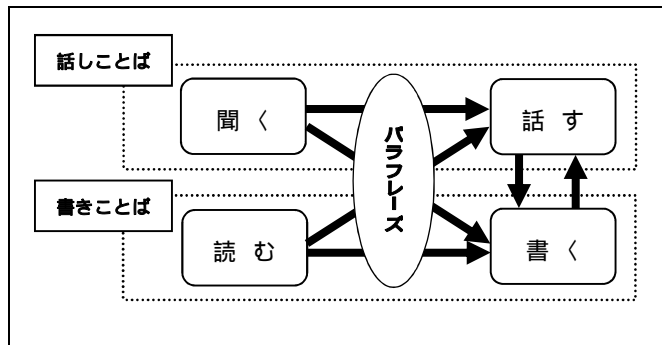


図1 四技能とパラフレーズとの関係

2. 研究の目的

本研究は、パラフレーズの教育方法の理論的・実践的構築を目指し、日本語教授法の基本を学んだ段階の学生及び日本語教師を主な対象とした日本語指導書を開発することを目的としたものである。この指導書開発を通して、パラフレーズに着目した日本語教育の方法を広く提言することを目指した。

3. 研究の方法

上述した研究目的を達成するために、以下の方法で実施した。

(1) 既存の日本語指導書の分析

日本語指導書の試案を構想するに先立ち、複数の言語技能の組み合わせ及びパラフレーズに焦点を当てて、既存の日本語指導書を分析した。現状で不足している点を整理し、開発する日本語指導書の基本方針と全体的な構成を決定した。

(2) 日本語指導書の編成と各内容の検討

日本語指導書の編成と各内容を多面的に検討した。具体的には、平成19年度から継続して行ってきた、パラフレーズに関する三つの科学研究費補助金研究(課題番号 19520442、22520518、25370575)で検討した語彙面・統語面・意味面に加えて、文献の引用(筆記、口頭)、プレゼンテーション、協働学習(ピア・レスポンス、ピア・リーディング)、教科書リライトについて各分析や教育実践を行い、重要な点や留意すべき点を整理した。

(3) 日本語指導書の試作版の作成

上記(2)をもとに日本語指導書に示す例文や事例を検討した後、日本語指導書の試作版の一部を作成した。

(4) 日本語指導書の試作版の評価と改善

日本語教授法を学んでいる大学生及び日本語教師を対象に、上記(3)の試作版に対する評価アンケートを実施し、改善を図った。

(5) 日本語指導書の試作版の評価と改善

上記(4)の評価アンケートの結果をふまえて完成させた試作版に対して、複数の大学教員に専門的及び評価的観点から意見を求め、更に改善を図った。

(6) 日本語指導書の完成

上記(1)~(5)を総括して、日本語指導書『パラフレーズから考える日本語教授法』を完成させた。

4. 研究成果

本研究を通して、「聞く」「話す」「読む」「書く」の言語技能を組み合わせた日本語学習に必要なパラフレーズの諸相と教育方法を段階的に学べる日本語指導書を新たに開発することができた。これにより、日本語教授法の基本を学んだ段階の学生及び日本語教師にパラフレーズ全般にかかわる専門知識と具体的な教育実践について学ぶ機会を提供できるようになった。以下、(1)本指導書の概要、(2)本研究の成果と意義、(3)今後の展望の順に述べる。

(1) 本指導書の概要

主な対象

日本語教授法の基本を学んだ段階の学生及び日本語教師を主な対象とした。

本書のねらい

本書では、「聞く」「話す」「読む」「書く」の言語技能を組み合わせた言語活動に必要なパラフレーズの特徴と各々の教育方法について知り、指導者の立場から教育実践を具体的に考えられるようになることをねらいとした。

全体の構成と内容

本書は、a)パラフレーズに関する専門知識を学ぶ「理論編」、b)例文や事例、授業案等の検討を通して教育実践について考える「実践編」、c)タスク形式のシミュレーションで教材作成を試みる「応用編」の三部から構成されている。

各内容は、図2に示す通りである。「理論編」では、言語学や認知心理学の知見に触れながら、パラフレーズとはどのようなものなのかについて解説した。「実践編」では、中上級以降の日本語学習を中心に種々の言語場面におけるパラフレーズの特徴と学習上の留意点を示した。理論編で学んだことをふまえながら、授業や教材で使う例文の作成、よくない事例とその改善例の検討、授業案の検討を試みる場を設けた。「応用編」では、タスク形式で教材作成をシミュレーションする場を設けた。1)学習目標の明確化と学習内容の検討、2)上記1)の内容を教えるためのワークシート等の作成、3)作成したワークシート等の改善、といった段階を踏みながら取り組めるようにした。

全体を通して、パラフレーズが単に語の置き換えではないこと、またパラフレーズには言語的な知識のみならず、内容に関する知識や思考が不可欠であることに触れ、そのような視点からの授業設計・教材作成を重視した。

第 部 理論編

1. パラフレーズとは
2. パラフレーズにかかわる三要素：語彙・統語・意味
3. 第二言語習得とパラフレーズ
4. 意味を読み取って表す：文献の引用に向けて

第 部 実践編

1. 話すことを書く：発表の表現とスライドの表現の違いを教える
2. 聞いた（聴いた）ことを書く：インタビュー調査で聴いた発言内容をレポートの一部に書くことを教える
3. 読んだことを書く：文献の内容を引用することを教える
4. 聞いた（聴いた）ことを話す：インタビュー調査で聴いた発言内容を口頭で報告することを教える
5. 読んだことを話す：文献を読んで報告することを教える
＜コラム＞ 協働学習とパラフレーズ
6. 書いたことを話す：調査レポートの内容を発表することを教える
7. 相手にあわせて書く：小・中学校教科書の文章の難易度を調整する
＜コラム＞ 中国語を母語とする子どもを対象としたリライト：漢語の扱いについて

第 部 応用編

1. プレゼンテーションを教える際のワークシートを作る
2. ライティングを教える際のワークシートを作る
3. リライト教材を作る

図2 本指導書の構成と内容

(2) 本研究の成果と意義

本研究の成果は、以下の点に総括される。

第一に、「聞く」「話す」「読む」「書く」の言語技能を組み合わせた言語活動に関する教育方法と着眼点をパラフレーズに焦点をあてて示すことができた。

第二に、豊富な例文や事例、授業案等を挙げながら解説し、パラフレーズの諸相をわかりやすく学べる場を提供することができた。

第三に、言語面のみならず、内容に関する知識や思考を基底としたパラフレーズにも注目し、学習者が主体的に「考える」ことに主眼を置いた授業設計・教材作成の方向性を示すことができた。

日本語教育経験が浅い場合には、類義語をペアにして機械的に覚えるような練習に陥る傾向がある中で、本研究では、上述した第一から第三の点を通して第二言語としての日本語の学習を総体的に捉えるための視座を提示した。このような日本語指導書は、従来なかったものであり、日本語教授法を学ぶ学生及び日本語教師の一助になると思われる。

(3) 今後の展望

今後は、本指導書を実際の日本語教師養成・研修に位置づけて活用しながら効果を検証し、日本語教授法を学ぶ学生及び日本語教師の教授能力向上への寄与を目指したい。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計4件（うち査読付論文 3件／うち国際共著 0件／うちオープンアクセス 4件）

1. 著者名 鎌田美千子	4. 巻 49
2. 論文標題 パラフレーズに着目した日本語指導書開発のための一考察 質問紙調査から見えてきた課題	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 宇都宮大学国際学部研究論集	6. 最初と最後の頁 51-59
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） http://hdl.handle.net/10241/00012114	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 鎌田美千子	4. 巻 47
2. 論文標題 指導段階および教科に応じた教科書リライトの方法論的検討 日本語を第二言語とする子どもたちへの学習支援に向けて	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 宇都宮大学国際学部研究論集	6. 最初と最後の頁 33-39
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） http://hdl.handle.net/10241/00011847	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 鎌田美千子	4. 巻 31
2. 論文標題 日本語教授法とパラフレーズの学習	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本語教育連絡会議論文集	6. 最初と最後の頁 110-117
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 鎌田美千子	4. 巻 7
2. 論文標題 日本語を第二言語とする子どもたちのためのリライト教材作成に関する方法論的検討 日常会話レベルから教科書レベルへの橋渡し	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 宇都宮大学留学生教育研究論集	6. 最初と最後の頁 3-10
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計10件（うち招待講演 1件 / うち国際学会 3件）

1. 発表者名 鎌田美千子
2. 発表標題 大学・大学院のライティングにおけるパラフレーズと教育上の課題 ピア・レスポンスの事例からの考察（パネルセッション「大学における日本語ライティング教育の課題と可能性 言語スキル養成からライティング支援人材の育成まで」発表1）
3. 学会等名 2019年度日本語教育学会春季大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 鎌田美千子・劉キョウ
2. 発表標題 中国語を母語とする児童を対象とした教科書リライトにおける漢字の扱い 学習支援に向けた「リライトのための日中漢語対応表」の作成と活用
3. 学会等名 子どもの日本語教育研究会第4回研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 鎌田美千子
2. 発表標題 日本語を第二言語とする子どもたちへの学習支援におけるパラフレーズの問題 社会文化的な背景知識を必要とする場合と必要としない場合
3. 学会等名 2018年度異文化間教育学会第39回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 鎌田美千子
2. 発表標題 日本語教育におけるパラフレーズの扱いを再考する 「考える」ために必要な視点
3. 学会等名 批判的言語教育国際シンポジウム（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 鎌田美千子
2. 発表標題 日本語教授法とパラフレーズの学習
3. 学会等名 第31回日本語教育連絡会議（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 鎌田美千子
2. 発表標題 パラフレーズの学習に着目した日本語指導書の試案 質問紙調査から見えてきた課題
3. 学会等名 International Symposium Japanese Language Learning for New Generations（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 鎌田 美千子
2. 発表標題 日本語を第二言語とする子どもたちを対象とした教科書リライトの二つの方向性と検討課題
3. 学会等名 2017年度異文化間教育学会第38回大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 鎌田 美千子
2. 発表標題 口頭でのパラフレーズに関する教材開発の試み 複数の言語技能の組み合わせを中心に
3. 学会等名 2017年度日本語教育学会支部集会（東北支部）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 鎌田美千子
2. 発表標題 パラフレーズに関する指導書の開発の試み 複数の言語技能の組み合わせに注目して
3. 学会等名 2016年度日本語教育学会秋季大会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 鎌田美千子
2. 発表標題 評価の視点から見たパラフレーズの問題 アカデミック・ライティングにおける引用を中心に
3. 学会等名 第40回アカデミック・ジャパニーズ・グループ研究会「アカデミック・ジャパニーズにおけるパフォーマンス評価としてのルーブリックを考える」(パネルディスカッション)(招待講演)
4. 発表年 2016年

〔図書〕 計6件

1. 著者名 石黒圭・鳥日哲(編)、井伊菜穂子・鎌田美千子・胡芸群・胡方方・田佳月・黄均鈞・布施悠子・村岡貴子(著)	4. 発行年 2020年
2. 出版社 ココ出版	5. 総ページ数 283
3. 書名 どうすれば論文・レポートが書けるようになるか 学習者から学ぶピア・レスポンス授業の科学 (共著, 第3章 論文作成におけるパラフレーズの展開 学習者はどのように言い換え改善するのか)	

1. 著者名 鎌田美千子	4. 発行年 2020年
2. 出版社 宇都宮大学 鎌田美千子研究室	5. 総ページ数 123
3. 書名 パラフレーズから考える日本語教授法	

1. 著者名 鎌田美千子・劉キョウ	4. 発行年 2020年
2. 出版社 宇都宮大学 鎌田美千子研究室	5. 総ページ数 51
3. 書名 中国語を母語とする児童を対象としたリライトのための日中漢語対応表	

1. 著者名 村岡貴子・鎌田美千子・仁科喜久子編著	4. 発行年 2018年
2. 出版社 くろしお出版	5. 総ページ数 223
3. 書名 大学と社会をつなぐライティング教育（共同編集・分担執筆，第2章 大学教育から見たパラフレーズの諸相）	

1. 著者名 宇都宮大学国際学部編	4. 発行年 2018年
2. 出版社 下野新聞社	5. 総ページ数 183
3. 書名 多文化共生をどう捉えるか(分担執筆，教科書の文章とパラフレーズ 日常語・抽象語・背景知識・主体的な学び)	

1. 著者名 東北大学高度教養教育・学生支援機構編	4. 発行年 2017年
2. 出版社 東北大学出版会	5. 総ページ数 163
3. 書名 責任ある研究のための発表倫理を考える（分担執筆，第6章 言語教育から引用の問題を考える パラフレーズを中心に ）	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----